

平成28年7月11日

早期 稲作情報 第3号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

6月の気象は、気温はやや高く、日照時間は少なく、降水量はやや多いという状況でした。草丈は平年よりやや長く、茎数はやや少なく、出穂は平年並かやや早くなると考えられます。病害虫では、セジロウンカ（夏ウンカ）の発生を認めました。

これから、出穂期を迎えます。今後は、水管理や病害虫の発生に注意して管理を行ってください。

1. 水管理

- 出穂期は、4月20日～30日田植えのコシヒカリで7月13日～16日頃、5月1日頃田植えの夢つくしで7月20日～23日頃と予想されます。
- 開花期での水不足は、登熟不良を起こしやすいので、特に注意が必要です。浅水管理もしくは弱めの間断かん水を行いましょう。
- 台風通過前は、深水にして茎葉の揺れを少なくします。台風通過後は、水分吸収が盛んになるため、数日間は田に水が切れないようにしてください。
- 早期落水は登熟不良・品質低下を招きます。収穫1週間前までは間断かん水を続けてください。

2. 病害虫防除

- 下記の表を参考に穂もちとカメムシ対策のため、出穂期の防除を徹底しましょう。

《出穂期防除》

防除時期	対象病害虫	薬剤名	散布量
出穂直前(走り穂の頃) ～出穂期 (穂揃期まで)	いもち病、紋枯病 カメムシ類 ウンカ類	ダブルカットバリダK 粉剤 DL	3～4kg/10a

《穂そろい期防除》

防除時期	対象病害虫	薬剤名	散布量
穂そろい期～乳熟期 (収穫14日前まで)	カメムシ類 ウンカ類	キラップ粉剤 DL	3～4kg/10a

※ミツバチへの危害防止のため、スタークル剤（粉剤・液剤）を稲の開花期に散布することは避けてください。

※カメムシは畦畔や休耕田のイネ科雑草が発生源となります。出穂2週間前に草刈りを行いましょう。

★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 水田では止水期間（1週間程度）を遵守
- ④ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄
- ⑤ 防除履歴の正確な記帳